

道博協ニュース

第 13 号

発行 昭和 58 年 2 月 1 日
 発行所 北海道博物館協会(事務局)
 札幌市中央区宮ヶ丘 3 の 1
 札幌市円山動物園内
 電話(011)621-1426

第二十二回北海道博物館大会

の開催概要決まる

「豊かな街づくりと博物館園のかかわり」

より活発になることを期待します。

開催地紹介

岩内町

第二十二回の北海道博物館大会の開催概要が、先の役員会(十二月十日)で決まりましたので、お知らせします。大会には、会員多数が出席され、館園のあり方について熱心に研究討論され、盛会に開催されることを期待いたします。

開催期間は、二日間で、六月を予定しています。

開催場所は、岩内町です。

第一日目、九時受付、ついで日動水協毛利専務理事の講演、「博物館をとりまく最近の情勢」を予定。大会テーマ「豊かな街づくりと博物館

園のかかわり」にもとづく、基調講演、昼食後、一時から

四時までシンポジウム、各機関から提言をいただき、活発な討論の場とします。四時から五時三十分まで、各会場

にわかれ、館園長会議、学芸職員等会議、一般参加者研修

会を行います。特に、一般参加者研修会は、昨年につづいて二回目ですが、ユニークな

研修会になるものと楽しみにしています。六時から懇親会、各館園の情報交換や、旧交を

あためていただきます。

第二日目、九時から総会、終了後、景勝地岩内の観光、歴史的に由緒ある施設の見学

を予定しています。

この大会を機会に、地域に根ざした博物館園の活動が、一

年には戸数二二八一戸、人口

一五、五六〇人もあり、いかに隆盛を極めていたかその昔が偲ばれます。

昭和三十年四月隣村であった島野村と合併し、現在総面積七一、五五平方町、世帯数七、六七七戸、人口二二、三四二

人で岩内、古宇両郡の経済・文化の中心地となっております。岩内の歴史は、また鱒の歴史でもありました。豊漁であった千石場所も昭和五年以降は皆無漁となり、漁業家の倒産、他地方へ転出者が続出して生活の不安がつり、この間に永年栄華を誇った鱒場の親方衆(網元)は悉く倒産し去ったのであります。

ところが、この悲惨な窮状を打開し、その救世主となったのは「すけそう鱒」でありました。それに加えて明治四十年以来、営々と築き上げた築港が幸いしたことであり

ます。「すけそう鱒」漁場は明治三十五年が発見され、以来種々漁撈法が改善されて発動機船漁業が好結果を得たの

明治三十三年の一級町村制の施行により町となり、当時

は鱒の千石場所、明治三十二年には戸数二二八一戸、人口

がきっかけとなり、今では岩内の主幹産業で、全町挙げてその製造、販路拡張等に全力を傾注しております。昭和五十六年度の漁獲高は一六、〇〇〇屯、金額にして二十五億円にも及び、全漁獲高の大宗を占めております。

岩内町は昭和二十九年九月二十六日、台風十五号襲来の際、火災が発生して全町の八割三、三〇〇戸を焼失し、約百億円の損害を蒙りましたが、その後町民のたゆまない努力によって見事に復興し、近代的な町に生まれ変わりました。

ニセコ積丹小樽海岸国定公園に指定されている岩内、古宇海岸線は風光明媚、かつ数々の伝統を秘めており、夏の海水浴場の好適地として遠く道内外よりの観光客が多数来遊されております。岩内駅より西方八杆のところにある雷電海岸は男性的な荒けずりと、神秘的な美しさに温泉街を加味して、観光地として多くの人に親しまれております。

また市街より南方約四杆の

処に岩内の街と積丹半島を一望できる標高二三一米の小高い山(通称円山観音山と呼ばれている)は大正三年に西国三十三ヶ所の観音の分身を祀るために開かれ、町では円山周辺開発事業として循環線道路を造成、このほど全面開通をいたしました。この開通により岩内市街と積丹半島を一望できる手軽なドライブコースとして大いに利用されることになり、更に円山の頂上に岩内を象徴する岩内岳がそそり立ち、その斜面に造られたいわない岳国設スキー場は今年で三年目を迎え、三杆のロングダウンヒルが楽しめるビッグゲレンデとしてすっかり有名になりました。また円山の中腹に湧く温泉を利用して国民年金保養センターと岩内町いこいの家の宿泊施設も整っております。

また明治二十五年より二十二年間文豪夏目漱石は本籍を(一説には兵役を逃れるため)北海道へ、それも岩内町へ置いたことがあります。また薄

命の作家有島武郎は岩内の一青年木田金次郎をモデルとして、苦悩しながら創作活動に道を求める姿とその生き方を描いた「生れ出づる悩み」を発表し、注目を集めました。この明治、大正の二大文豪ゆかりの地岩内には今両者の記念碑が静かに海を見つめています。

市街国道沿いを西へ進むと、鯨御殿風の岩内町郷土館があります。中には明治・大正か

岩内町郷土館
(昭和46年5月開館)



ら明治初期にかけて隆盛を極めた鯨御殿時代の漁具、生活用品資料、北海道文化財に指定された町内東山遺跡の出土品、アイヌ民族の生活資料、有島武郎の遺品、遺墨、木田金次郎画伯の作品・遺品等が展示されており、見逃すことのできない施設となっております。

新入館園紹介

本年度に道博協へ入会しました静内町郷土館、穂別町立博物館より館の紹介記事を寄せていただきましたので紹介します。

静内町郷土館

静内町郷土館は、昭和43年北海道開拓記念百年事業の一つとして、図書館と併設の、「静内町郷土、図書館」として設立された。その後、昭和49年に図書館が新設され、郷土館として独立した。町内より収集された収蔵資料は十萬

点にも及ぶが、建物が本来郷土館用に建てられたものではないため、展示しているのは一部である。特に考古資料は、昭和20年代より活発に行われた、静内高校郷土史研究会の活動によって収集された土器、石器類が昭和56年に郷土館に移され、さらに、昭和55年から町教育委員会が実施している発掘調査によっても大量の資料が収蔵されている。また、北海道指定史跡である、御殿山墳墓群出土の副葬品類で、漆塗りの櫛、土偶、玉類は縄文時代後期から晩期にかけての重要な資料として、道指定文化財となっている。55年より行っている発掘調査では、縄文時代早期の豊富な資料が出土しており、学界から注目されている。これらの考古資料は約9万点以上にもおよぶものである。

明治以降の開拓資料は、農漁具ともに、現在も収集されつつあるが、展示面積が狭いため、ごく一部を展示しているだけである。

静内町はアイヌ系住民の多い日高地方にあっても、アイヌ系住民の多い町であり、それに關した資料も、百種類・五百点ほど収蔵されている。

これらの中には、北海道開拓とともに姿を消した。エゾオオカミの頭骨が、アイヌの人

たちによって、物送りされたままの状態で保存されているものもある。また、江戸時代の砂金掘りの人たちによって持ち込まれた道具類も、アイヌの英雄、シャクシャインの

岩跡付近より発掘され、展示されている。これらの資料は、昭和58年に、シャクシャインゆかりの地である。真歌山に

開館する、アイヌ民俗資料館に展示、収蔵する資料館に移される。

現郷土館も真歌に開館する資料館ともに面積は350㎡ほどであり、観覧時間は約30分である。

入館料 無料

開館時間 午前9時〜午後

5時(土曜日は12時)

休館日 日曜日、祝日、12

月30日〜1月5日

真歌に建設される資料館については、名称等、現在検当中である。

所在地 静内郡静内町古川町一丁目四一番地

電話 (〇一四六四)

二一〇〇七五

穂別町立博物館

穂別町立博物館は、昭和五十七年七月二十日にオープンした総合博物館です。

人口五、二〇〇人の静かな町に、博物館を建設することになったきっかけはなんだったのでしょうか。

昭和五十年六月、穂別町化石研究会の荒木新太郎さんは穂別川の支流で動物の骨らし化石を発見しました。この化石は鑑定の結果、白亜紀の海に生息していたクビナガリユワのひれの一部分であることがわかりました。

これをうけて、穂別町では、首長竜化石発掘調査団を結成し、昭和五十二年七月に発掘

をおこなったのです。得られた化石から胴体部分の骨がよくそろっていることがわかり、クビナガリユワの復原骨格の作成と、その展示が決定されました。

化石のクリーニングは、郷土資料館の都田哲さんが三年七ヶ月かけておこない、その期間中、北海道大学の大学院生、仲谷英夫さんが復原のための骨学的研究をおこないました。

一方、クビナガリユワを展示する施設は、当初資料館として計画されましたが、度重なる検討の結果、クビナガリユワ以外にもアンモナイト、ワミガメ、クジラ、デスマスチルスなど貴重な化石資料を多く保有していることから、化石を中心とする博物館として、開町七十年町制施行二十年を記念し開館することになったのです。

展示内容

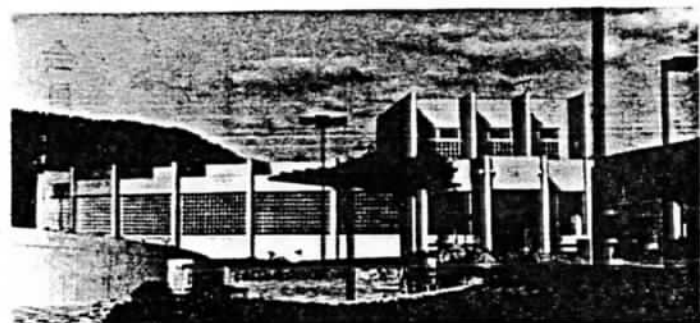
一、よろこ博物館へ
来館された方がたに対する
歓迎と博物館の利用案内をお
を展示しています。

知らせるコーナーです。
エントランスホールに展示した、体長八メートルのクビナガリユワ復原骨格は来館者に大きな印象を与えることでしよう。

二、変化ある地形と地質
縮尺二万五千分の一の地形模型、地質図、岩石標本、古地理図などを関連づけて展示し、穂別町の地史を総合的に理解できるように配慮しています。

三、海だった穂別
穂別町に産する化石の展示を中心に、三つの時代に分けて展示しています。
「クビナガリユワの海」では、クビナガリユワの発見から復原までの様子をビデオで再現しています。また白亜紀の海に生きていたクビナガリユワやカメ、直径一メートルをこすアンモナイトなど多くの化石を展示しています。

「クジラとデスマスチルスの海」では新生代新第三紀の地層から産出した哺乳動物化石を中心に展示しています。
クジラ化石との比較のため現生クイワシクジラの全身骨格標本を展示しています。デスマスチルスのコーナーでは、生態復原図、骨格図などに最新の知見をとり入れて展示しています。



四、人類の出現

哺乳動物としての古い形質と、人としての新しい形質を

あわせもつ人類の誕生をテーマにとりあげました。魚からヒトにいたるヒトの直系の展示と化石人類の頭骨模型の展示は見る人の想像力をかきたてずにはおかないでしょう。

• マルチスライドスクリーン
地教の誕生と生物の進化

テーマ三と四の展示で示された内容をより深く理解していただくため、生物進化の全体像を三面のマルチスライドを用いて紹介しています。

五、道具の発達と生産

穂別に人が住みついてから現在まで、それぞれの時代に合った道具類が使われてきました。ここでは、その中から生産に用いられた道具類を展示しています。また木材の伐採、流送、網羽と製炭の様子をジオラマと写真を使って展示しています。

六、生活の変化と文化の創造
ここでは生活用具を中心に、穂別町の歴史もあわせて紹介

しています。

七、新しい町づくりをめざして

穂別町の現在の姿を、写真とビデオの映像を通して紹介しています。このビデオ学習コーナーでは、十数本のプログラムの中から、観覧者の希望するものを自由に選択できるようになっています。

博物館の概要

• 名称 穂別町立博物館

• 所在地 勇払郡穂別町字穂別八十番地の六

• 電話番号 〇一四五四

• 敷地面積 一五、三二四一

• 敷地面積 五、八〇五平方メートル

• 建築面積 一、一〇〇平方メートル

• 構造 鉄筋コンクリート平屋建

• 利用案内

• 開館時間 午前九時半～午後四時半

• 休館日 毎週月曜日、祝日、毎月月末日、年末年始

本年度会員館園事業計画発表

本年度はじめての企画として会員館園の事業計画の提出をお願いしましたところ、多くの館園の協力を得ることができました。この中から今後計画されている事業を紹介します。

• 三笠市立博物館

テーマ展「たがやす」

一月上旬～三月下旬

• 士別市立博物館

北海道の「葉」展

二月

• 美瑛市郷土史料館

古美術展

二月～三月

• 市立名寄図書館郷土資料室

古建造物パネル展

二月～三月

団体会員

負担金の改正

士別市で開催した昭和五十七年度総会において団体会員の負担金を昭和五十八年度から一万円（現行八千円）に改正

されました。

なお、この会則改正は昭和五十八年度総会に提案する予定です。

学芸職員部会
新役員紹介

学芸職員部会の役員が次のとおり決定しました。

• 部長 沢 四郎

• 副部長 矢野 牧夫

• 幹事 金盛 典夫

• 斜里町立知床博物館 其田 良雄

• 旭川郷土博物館 土屋 周三

• 小樽市博物館 佐藤 一天

• 苫小牧市青少年センター 山下 章

• 青函トンネル記念館 監事 谷岡 康孝

• 浦河町立郷土博物館 杉浦 重信

• 富良野市郷土館

会員の異動

入会

• 団体会員

札幌彫刻美術館

札幌市中央区宮の森四

条十二丁目八六六

• 北海美術工芸

札幌市白石区北郷五条

四丁目一〇五五

• 穂別町立博物館

勇払郡穂別町字穂別

八十番地の六

• 北海道立旭川美術館

旭川市常盤公園内

• 新十津川開拓記念館

樺戸郡新十津川町字中

央一番地

• 個人会員

片桐 宏理